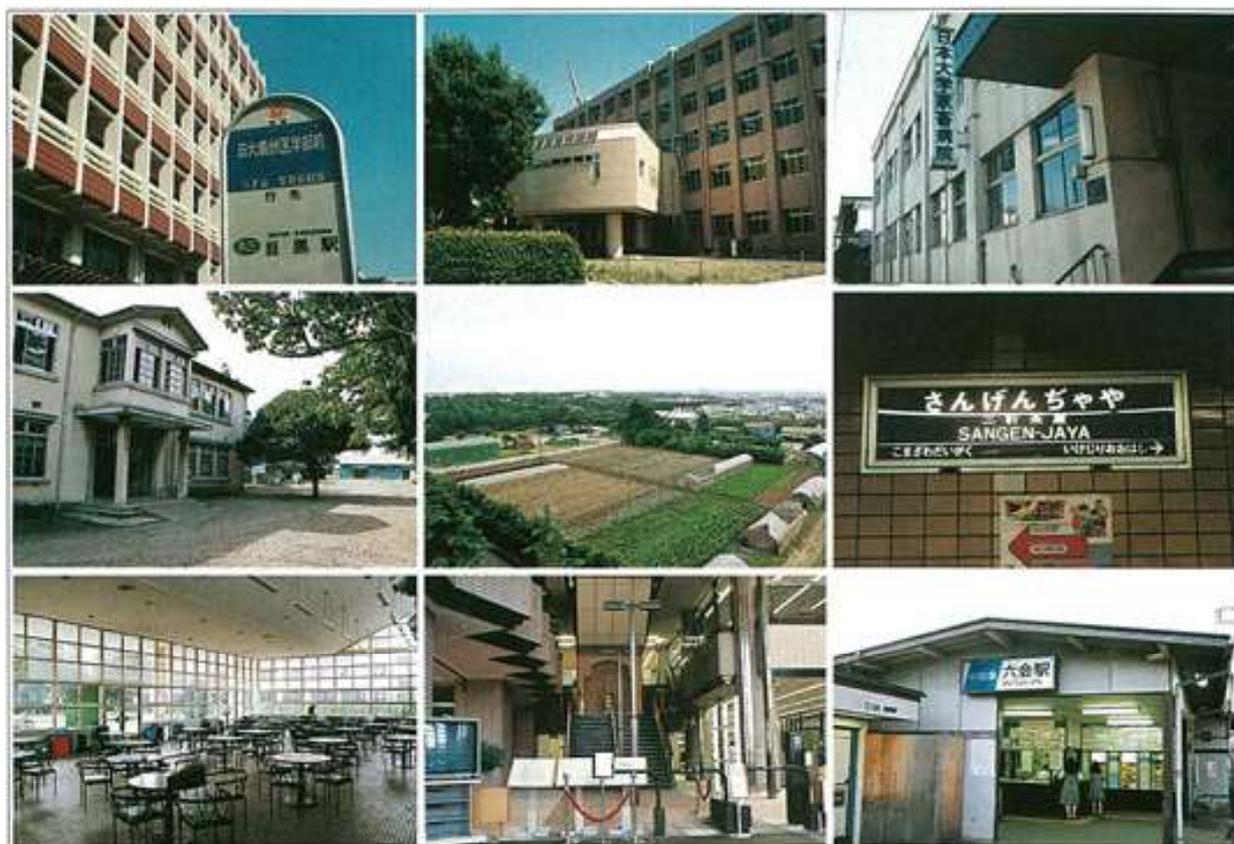


日本大学 農獣医学部 校友会会報

第46号



《目 次》

平成5年度総会と懇親会……………2	桜水会（水産学科）……………11
新役員を選出……………2	工学会（農業工学科）……………12
台湾支部を設立……………2	F T会（食品工学科）……………13
新総長に瀬在文理学部長……………3	拓友会（拓植学科）……………14
平成5年度学部執行部……………3	むつあい会（短期大学部農学科）……………15
入試について……………3	生活環境学科校友会
平成4・5年度決算・予算表……………4	（短期大学部生活環境学科）……………16
農学校友会（農学科）……………5	応用生物科学科校友会
業友会（農芸化学科）……………6	（応用生物科学科）……………17
角笛会（獣医学科）……………7	地方支部だより……………18
満喜葉会（畜産学科）……………8	日本大学農獣医学部校友会役員……………19
いもづる会（食品経済学科）……………9	校友通信コーナー……………20
林学科校友会（林学科）……………10	

平成5年度の総会・懇親会

京王プラザホテルで開く



平成5年度の総会は7月10日(土)15時より新宿京王プラザホテル47階「あけぼのの間」で、また懇親会は17時より4階「錦の間」で開催された。

総会は会員100余名の参加のもと高坂鉄雄事務局長の司会で開会し、茂澤会長のあいさつのあと、議長に会長が選出され、以下の議事が審議され、承認された。

①平成4年度一般経過報告②平成4年度会計決算報告③平成5年度事業と予算④役員改選⑤台湾支部の承認⑥その他(日本大学評議員の推薦)



新宿京王プラザホテルで開かれた平成5年度総会

平成5～7年の新役員は、会長に茂澤 泉(紫友会)、副会長に富澤寿樹(むつあい会)、日比野次郎(角笛会)、山下金義(桜水会)、監事に山根勝次(いもづる会)、西山栄一(農学校友会)、野田郁夫(林学校友会)、事務局長に木村貞司(満喜葉会)の諸氏が満場一致で推挙承認された。

懇親会は53名の来賓をお迎えし、総勢約170名のご参会のもと、木村貞司新事務局長の司会で開宴した。



茂澤会長



富澤副会長



日比野副会長



山下副会長



総勢170名が参加した懇親会

茂澤会長のあいさつのあと、来賓の梶原長雄日本大学常務理事、門田定美農獣医学部長の祝辞があり、出口吉昭学務担当の乾杯発声をうけて懇談に入り、なごやかな歓談が続いた。

また、校友会活動に功労のあった前副会長一川宏也氏(工学会)、野田義人氏(F T会)、前事務局長高坂鉄雄氏(いもづる会)に感謝状と記念品が贈られ、参加者の大きな拍手を受けた。

前学務担当山澤新吾氏の音頭で校友会と農獣医学部の発展を祈念して万歳三唱が行われ、続いて富澤新副会長の閉会の辞で宴を閉じた。



感謝状を贈呈

台湾支部を設立

日本大学台湾支部の中で農獣医学部出身者の増加にともない、庄川前会長の時代から支部設立の準備

が進められていた。このたび発会承認の運びとなり農獣医学部台湾支部が発足した。

本総会には、葉澤波農獣医学部台湾支部長夫妻が出席され、設立にいたる経過と承認に関して謝意が述べられた。

懇親会の席上、茂澤会長より葉澤波夫妻の紹介とともに記念品が贈呈された。



葉澤波支部長夫妻

新総長に瀬在文理学部長



6月17日に行われた日本大学総長選挙で、瀬在良男文理学部長が選ばれた。任期は平成5年9月1日から3年間。

略歴は大正15年2月20日生まれ、昭和25年日本大学法文学部哲学専攻卒、同年法文学部助手、30年法文学部専任講師、33年文理学部助教授、42年文理学部教授、50年文学博士、63年通信教育学部長、平成元年副総長、2年文理学部長、3年日本大学精神文化研究所長事務取扱をつとめ、学外では日本科学哲学会理事、国際科学哲学会日本代表委員などをつとめている。日本大学内外での活躍が期待されている。

平成5年度学部執行部

学部長・門田定美教授、事務局長職務代行・姫野貞義参事、学務担当・出口吉昭教授、学生担当・石井賢治教授、研究担当・藤原公策教授、企画・広報担当・唯野哲男教授、就職指導担当・佐藤辰男教授、事務長・濱中得三参事、事務長（藤沢校舎担当）・渡辺光男参事、経理長・菊地昭福参事が執行部として活躍されている。新しく任命された執行部はつぎのとおりである。（敬称略）



【研究担当】

藤原公策（68歳）教授。獣医学科。東京大学農学部畜産学科卒。農学博士。担当科目は獣医病理学。

【企画・広報担当】



唯野哲男（68歳）教授。食品工学科。東北大学工学部化学工学科卒。担当科目は食品化学工学。

【就職指導担当】



佐藤辰男（65歳）教授。一般教養。日本大学大学院文学研究科英文学専攻修了。

【事務局長職務代行】



姫野貞義（63歳）参事。日本大学工学部機械科卒。

学部事務局の人事異動

平成4年12月1日付で、本部管財部次長・姫野貞義氏が事務局次長に就任。平成5年4月1日付で藤沢校舎庶務課長に斎藤正道氏が就任。平成5年6月3日付で森保事務局長が定年退職され、姫野貞義事務局次長が事務局長職務代行に就任した。

入試について

日本大学農獣医学部は、平成6年度入学試験から従来の方法に加えて、つぎの2点を新たに設けて実施することにいたしました。

1 地方入試の導入

つぎの6試験会場で、平成6年2月2日（水）10時30分から実施いたします。試験科目は国語、数学、理科、社会から1科目選択、外国語、小論文（800字）で、募集人員は155名です。

試験会場 ①札幌（駿台予備校札幌校）、②仙台（河合塾文理）、③名古屋（名古屋早稲田予備校、代々木ゼミナール名古屋校）、④大阪（代々木ゼミナール大阪校）、⑤広島（代々木ゼミナール広島受験プラザ）、⑥福岡（代々木ゼミナール福岡校）。

2 公募制推薦入試に新方法を導入

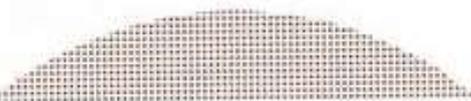
指定校制で実施してきた学部関連産業後継者推薦入試を、公募制においても募集することにいたしました。試験期日は平成5年11月21日（日）です。詳細は学部教務課に問い合わせください。（学務担当）

【表紙写真説明】（左上より右へ）東京校舎バス停 藤沢キャンパス新10号館 東京校舎家畜病院 農場本部 藤沢キャンパス内の農場 新玉川線三軒茶屋駅（波谷まで5分）学生ホール 図書館ホール 小田急線六会駅（湘南海岸まで15分）

農 学 校 友 会

◇農学科◇

農学科の現況



農学校友会の

創立40周年記念祝賀会

前号でご案内いたしました農学校友会創立40周年記念祝賀会が、平成5年10月16日(土)、藤沢校舎で実施されます。すでにご案内は事務局から届いていると思いますが、記念事業の一環として各期の代表者の一言を載せた名簿を発行し、終身会費の手続きをすまされた校友には発送しております。終身会費を納入しているのに名簿が送られてこない校友は事務局までご連絡ください。なお、この会報は祝賀会後に発送されることになると思いますが、これは祝賀会の日程も迫っており、式典の案内状を早く発送する必要があったからであり、事情をお察しのうえご了承ください。

創立30年を記念して、昭和58年10月に発行された「農学校友会30年のあゆみ」の中で、1期の山本秀雄氏は、校友会草創当時のことを「校友会の設立が28年11月、27年3月の東京獣医畜産大学との吸収合併の激動のなかで校友会設立の機運が芽生えてきた。同窓会の親睦を図ることはいうまでもないが、学科の新規巻き直しの情勢や将来の発展を願う、いわゆる母校愛の基調がそうさせていたことも見逃がし得ないところである。発会式の審議の中心は、民主的な組織と役員を選出、可能な限りの会員名簿発行の継続であったと聞く。30年の今日もなお、この精神と努力が受け継がれていることを誇りにしたい。発起人會に参集された諸兄の労に感謝したい」とされています。

この発会当時の思想・精神は現在でも脈々と感じられ、今日の農学校友会の基礎を組まれた諸兄ならびに校友会各位の労に、改めて感謝するものであります。

通算43年間にわたり大学、学部および農学科のためにご尽力いただいた蒲原 務先生が、本年3月末をもちまして退職になられました。まだまだお手伝いいただけるものと思っておりましたが、先生の強いご意志もありまして、やむを得なかったわけです。このうえはますますお体に留意され、いろいろとご指導をいただけるものと思います。

石井賢治先生は、昨年に引き続き学生担当という要職でご活躍なさっております。また、4月1日付で勝野武彦先生が教授に、井上弘明先生が助教授に昇格されました。本当におめでとうございます。

なお新しく緑地部門の教員として、建設省土木研究所より藤崎健一郎専任講師が、副手として本年3月に食品工科学を卒業された高久美樹さんが就任されました。学科のために、これからご二人のご活躍をお願いいたします。

蒲原先生が所属されていた農業気象学研究室が、農学科の環境部門の研究室として緑地環境計画学研究室に名を変え、勝野先生と藤崎先生が所属されています。

本年春、岩野秀俊先生が、また7月には野村和成先生が農学博士の学位を取得されました。ここに祝意を表したいと思います。

なお、学科内の動静では岩野秀俊先生が本年3月より来春までの1年間、日本大学海外長期派遣研究員として米国ミネソタ大学へ、磯部勝孝助手がつくばの農研センターへ5月より10月までの半年間、内地留学をしております。ご二人のご活躍を期待しています。

例年のことではありますが、この3月農学科47期生164名を社会へ送り出し、入れかわりに4月より新生184名が入学してまいりました。うち女子が70名で38%、昨年より0.5%あがりました。したがって5月1日現在1～4年生まで学生総数690名のうち、女子が214名の31%となりました。時代の成り行きとはいえ、農学科志向の女子学生が多くなってきています。

(藤井秀昭)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

平成4年度紫友会総会、懇親会を開催

平成4年度紫友会総会が平成4年11月13日、アルカディア市ヶ谷で開催された。

総会では茂澤 泉会長のあいさつのあと、事務局より平成3年度の事業や会計についての報告、また4年度の事業計画、予算案についての説明があり、いずれも承認された。

総会終了後、懇親会は学部関係の多数の来賓の方々にもご臨席いただき、多数の会員とともに盛大に行われた。

農芸化学科の近況

松坂泰明教授(土壌学)は、昨年12月3日をもって定年退職された。松坂先生は農水省農業技術研究所より本学に着任以来10余年にわたり研究・教育にご尽力くださったばかりでなく、学部研究担当、学務担当として、農獣医学部の発展に貢献された。

また、2、3年次の教育実験や学科事務を担当されていた生田明美副手も、本年3月31日をもって退職された。

4月1日付で下記の新任の先生方が着任し、活躍されている。これにより現在農芸化学科では、教授7名、助教授3名、講師5名、助手3名、副手2名の計20名のスタッフが一丸となり、研究・教育にあたっている。



荻原 淳助手(微生物化学研究室) 平成3年本学大学院博士前期課程を修了。日本化薬(株)総合研究所で活躍されていた。



西尾俊幸助手(生物有機化学研究室) 昭和56年埼玉大学理学部卒業、同58年東京農工大学大学院修了、平成2年農学博士(東北大学)。 サッポロビール

(株)医薬開発研究所主任研究員として活躍されていた。



渡辺晃代副手(実験準備室)

本学農芸化学科をこの3月に卒業され生田明美副手の後任として、活躍されている。

また、この4月より河野守宏氏(昭和37年卒)、浜野光年氏(昭和42年卒)の2名の農化OBが非常勤講師として教壇に立たれ、後輩の教育にあたっておられる。



河野氏は現在、第一製薬(株)開発研究所プロジェクトコーディネーター担当主幹として、また、浜野氏はキッコーマン(株)研究本部研究担当部長、研究プロジェクト統括として活躍されている。河野氏と浜野氏は『農芸化学特別講義』を担当し、社会の現場から熱



のこもった講義を展開され、社会人OBによる教育効果は大きいものと期待されている。

学位の授与

奥 忠武助教授(生物有機化学研究室)は、『ガンマ線照射のアミノ酸、ペプチドおよびタンパク食品への影響』で日本大学より博士(農学)の学位を授与された。

また、関 泰一郎講師(栄養生理化学研究室)も、『肝臓線溶活性化酵素に関する研究』で東京大学より博士(農学)の学位を授与された。

紫友会からのお知らせ

紫友会は、来年で40周年を迎えます。事務局では記念事業の一環として準会員(在学生)への奨学金制度を検討中です。紫友会ではこれら記念事業のみならず、会の運営方法や方針などに多くの会員の意見や議論を必要としています。『卒業生による卒業生のための紫友会』を実現するためにも、より多くの会員の方の総会への参加やご意見をたまわれば幸いです。(関 泰一郎)

角 笛 会

◇獣医学科◇

角笛会総会を開催

平成5年度の角笛会総会がさる5月8日(土)日本大学会館で開催された。総会では、まず、物故会員に黙祷を捧げた後、日比野次郎会長のあいさつが行われた。

議長には、白田英三会員(27年卒)が選出され、議事に入った。平成4年度事業報告、収支決算報告、および監査報告などがなされ、承認された。次いで平成5年度事業計画および予算、役員、表彰規定、付帯決議が慎重に審議され、承認された。平成5年度の事業計画は、角笛会活動の活性化、会報の発行、卒業記念品の贈呈、平成5年度総会開催、役員会開催から成っており、具体的には、全国事務局長会議および全国獣医師会長懇談会の開催などが盛り込まれている。

役員については、学内から酒井健夫教授(41年卒)が常任理事に、また理事には学内から8名、学外からは卒業各期1~2名の合計117名が承認された。

角笛会の発展に尽力された功績で前岐阜支部長の太田土岐司氏に会長より感謝状と記念品が贈呈された。

総会終了後、門田定美学部長をはじめ多数の来賓および会員が出席して懇談会が盛大に行われた。

学科の近況

獣医学科では平成5年3月から4月にかけて次のような異動があった。

藤原公策教授(獣医第2病理学)は、学部執行部の研究担当に就任され、また、白井弥教授のあとを受けて主任教授代行を務められていた井上勇教授(医動物学)が獣医学科主任教授に就任された。

岩沢ちえ子副手(獣医第2病理学)、大場智子副手(獣医生理化学)、大森雅子副手(獣医公衆衛生学)、小野真紀子副手(獣医伝染病学)が3月31日付で退職された。後任に、大村麻美副手(獣医学科卒)、金井薫副手(畜産学科卒)、森田容子副手(畜産学科卒)、

鷹見可奈子副手(食品工学科卒)が着任された。

また、4月1日付で月瀬東先生(40年卒)および酒井健夫先生(41年卒)がそれぞれ教授に昇任された。

ワシントン州立大学で夏期獣医臨床実験

本学の姉妹校であるワシントン州立大学(米国ワシントン州ブルマン)における夏期獣医臨床実習が7月24日から8月9日の日程で実施された。

吉田仁夫教授(獣医内科学)を団長に、丸山総一専任講師(獣医公衆衛生学)、小坂俊文助手(獣医放射線学)の引率により獣医学科5年生25名、6年生8名の計33名が参加した。ウマを対象としたコースと小動物を対象としたコースとに分かれ、少人数のグループで有意義な実習が行われた。終了式には門田定美学部長も出席され学部を代表してあいさつされた。

日本大学獣医学会の発足記念学会が開かれる

東京獣医畜産学会から改称された日本大学獣医学会(佐藤敬会長)の発足記念学会(勝部泰次担当学会長)が、平成5年7月29日東京ガーデンバレスで開催された。この学会では特別講演が2会場に分かれて行なわれ、多数の会員の参加があった。総会では新しい会長に日比野次郎会員が選出された。

懇親会には多数の来賓、会員が出席、盛会だった。

新入生の歓迎会

恒例の獣医学科新入生歓迎会が今年度は4月28日に学生食堂3階で行われた。1年次担任の太田亨二教授、潘英仁助教授の企画で大いに親睦を深めた。

牧場実習行われる

獣医学科2年次を対象とした牧場実習(獣医臨床繁殖学研究室担当)が、今年も7月、8月にかけて実施された。実習場所は、北海道中標津をはじめ、日高、八雲、岩手県大東町など7ヶ所であった。引率は、武石昌敬教授、津曲茂久教授、高木香助手の3名であった。(金山喜一)

満喜葉会

◇畜産学科◇

満喜葉会総会・懇親会を開催

3年ごとに開催される日本大学満喜葉会総会が、さる5月15日(土)午後4時30分より、新宿伊勢丹プチモンドにおいて行われた。従来、満喜葉会総会は学内で開催された例が多いが、昨年11年に行われた理事・幹事会において、「総会は本会運営のための重要事項について審議決定するものであり、より多くの会員に出席していただくため、交通の便のよい場所で開催してはどうか」との意見が出されたことを受けて、今回は新宿での開催となった。

総会は木村 栄一会長があいさつされたあと、会則にしたがって会長を議長として、審議・報告が行われた。

①平成4年度満喜葉会経過報告②平成4年度満喜葉会一般会計および特別会計決算報告③会計監査報告④平成5～7年度役員選出(選出の経緯および結果は満喜葉会会報参照)⑤平成5年度満喜葉会事業計画案説明⑥平成5年度満喜葉会一般会計および特別会計予算案審議



盛会となった懇親会で

総会終了後、会場を移して多数の来賓をお招きし、懇親会が行われた。

懇親会は会長のあいさつに続き、茂澤 晃日本大学農獣医学部校友会会長、門田 定美日本大学農獣医学部長より祝辞をいただいたあと、森本 宏日本科学飼料協会理事長(元畜産学科教授)のご発声により乾盃し開宴した。懇親会は各分会会長、学部執行部の諸先生を迎え、総勢約100名にのぼる出席者が集まる盛会となった。会場では「年賀状は欠かさないが、前回の総会以来会う機会がなかった」などという声も聞こえ、時の過ぎるのも忘れて歓談が続いた。

新入生歓迎会・講演会を開催

平成5年度新入生歓迎会が5月16日(日)農獣医学部藤沢校舎において開催された。この新入生歓迎会は、例年ソフトボール大会と畜産学科・満喜葉会の共済による合同懇親会が開催されていたが、本年は新たな試みとして、木村 栄一満喜葉会会長、関 泰治、岩間 脩両副会長を招き「私の歩んだ道」をテーマに講演会も行われた。

講演は在学中の思い出話や人生哲学、社会へ貢献する事業を行うことが企業の発展につながる、といった社会の第一線で活躍されている方々ならではの話が披露された。会場には新入生ばかりでなく、就職を控えた上級生も加わり、熱心に耳を傾ける姿がみられた。

また、懇親会では満喜葉会の歴史の説明や、ソフトボール大会の成績発表なども行われ、楽しいひとときを過ごした。

学科だより



畜産学科副手として、学科の教学補助および満喜葉会の事務局員として会の運営に携わってこられた小林 直子さんが、本年3月をもって退職されました。

後任として本年4月より青木 由加さん(畜産食品科学研究室所属)が副手として採用され、実験・実習や教務事務などを担当されます。

(丹羽美次)

いもづる会

◇食品経済学科◇

会長に三木敏夫氏再選、新執行部選出

平成5年度総会・懇親会開催

平成5年度いもづる会総会および懇親会は、例年どおり6月6日三軒茶屋銀座アスターで盛大に開催された。総会では、会長に三木敏夫氏（3期）を再選、副会長には村山進（10期）、小林忠夫（14期）、高野博臣（24期）の3氏が留任、残りの副会長には前会計幹事の千田徹氏（21期）を選出した。長年にわたって本会の発展に貢献されてきた角井信前副会長（6期）は、本会顧問に就任することが決定した。また、千田氏の後任の会計幹事には井上和美氏（32期）が決定した。



総会での新執行部紹介（中央は三木会長）

本会は毎年開催される総会・懇親会に加えて、食品経済学科との共催あるいは協賛によってさまざまな事業を実施しているが、会員数の増加に対して事



懇親会（島津前教授の音頭で乾盃）



懇親会であいさつする門田学部長

務局のスタッフはむしろ減少し、事務量の増大に対応できない状況にある。そこで本会では、今年度より「組織活性化検討委員会」を組織し、名簿、会報、総会・懇親会、記念事業、事務局体制などについて抜本的な見直しをすすめると同時に、今後の会の運営方法、活性化にむけて検討を重ねている。

いもづる会の年間スケジュール

- 4月 総会・懇親会、就職セミナーの案内、事務局会議（2回）、就職セミナー案内配布、就職セミナー開催（学科との共催）、新入生歓迎（共催）
- 5月 学生幹事会、終身会費納入依頼、事務局会議
- 6月 総会・懇親会
- 9月 後期事業の検討（事務局）、学部校友会報発送
- 10月 球技（ソフトボール）大会（協賛）、学生幹事会、校友接待（三茶祭）
- 11月 学生幹事会（正・副代表幹事選出）、終身会費納入依頼、卒業予定者の住所・就職先調査
- 2月 事務局会議（次年度活動方針検討）、30周年記念基金委員会
- 3月 常任幹事会、名簿整理（卒業生）

就職セミナーも盛会

昨年度に引き続き、今年度も去る4月21日、東京校舎講堂に、雪印乳業はじめ日清食品など、およそ50の企業が参加して就職セミナーが開催された。昨年に引き続いて今年も厳しい就職戦線の幕開けとなったが、今年度はとくに長びく不況によって求人枠が一段と狭まったこともあって、セミナーには500人近い学生が詰めかけ、企業担当者、OBの説明に熱心に聞きいていた。

学科の動き

新学科主任に高坂教授

第8代食品経済学科主任に高坂鉄雄教授が選任され、その重責を担われることとなった。米の市場開放問題をはじめ日本の農業、食品産業が大きな転換期に直面している今日、食品経済学の確立にむけてその指導力が期待されている。また、清野誠喜助手が本年7月末よりレディング大学でのフードチェーンの研究のため渡英した。さらに、本年5月から武士田昌子さんが統計資料室に配属され、学科業務および統計資料室がより一層充実強化されることになった。

（下渡 敏治）

林学科校友会

◇林学科◇

林学科校友会幹事会を開催

平成5年6月10日に日本大学会館で林学科校友会幹事会を開催、総会日時などの議事が審議された。その結果、平成5年度総会は10月22日に日本大学会館で行われることが決定した。奮ってご参集を。

林学科に大学院が設置される

林学科にとって長年の念願であった大学院博士前期課程（森林科学専攻）が、平成4年4月に設置された。現在2年生7名、1年生11名が在籍し、各研究テーマのもと勉学に励んでおり、平成6年3月には第1期生が巣立っていく。なお、平成6年度博士後期課程開設を目指し、鋭意努力している。

藤沢校舎に学科移転を開始

平成5年3月藤沢校舎10号館完成に伴い、林学科も本格的に藤沢校舎への移転が始まった。平成5年度は4月、9月、平成6年度3月の3回に分けて引っ越しを行い、2年後に学科の移転が完了する。藤沢方面にこられたときにはぜひお立ち寄りを。



片岡先生を囲んでの研究室開き
(祝い樽の寄贈は15期の上貝氏)

教員紹介

本年度4月より新任教員が採用となったのでご紹介する。林学科の新しい力として期待している。



堀江 亨助手 昭和61年3月東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了、昭和61年4月日本銀行管財局建築技師、平成5年4月日本大学農獣医学部林学科助手。



脇 里枝子副手
平成5年3月日
本大学農獣医学
部林学科卒業



高柳 ルイ副手
平成5年3月日
本大学農獣医学
部水産学科卒業

なお、林学科は現在6ゼミに分かれ、教授5名、助教授4名、専任講師4名、助手2名、副手3名で学科の運営と学生の教育、研究に携わっている。

平成4年度校友会会長賞

平成4年度の校友会会長賞に下記の6名がその荣誉に輝いた。今後のご活躍を期待する。

佐久間 省三（森林・緑地造成ゼミ 日大大学院）

金井 由貴子（住宅・流通ゼミ 山梨県庁）

脇 里枝子（森林保護・風致ゼミ 日本大学副手）

天野 信敬（林業経営ゼミ 住友林業㈱）

山口 博一（木材科学・工学ゼミ 大和市役所）

山口 浩二（森林・緑地保全ゼミ 神奈川県庁）

学部運動会7連勝の快挙

前年に引き続き本年度も学部主催の運動会でみごと優勝し7連覇を飾り、学生の団結と志気の向上におおいに役立っている。



優勝を祝う学生たち

女子学生おおいに増える

地球環境に係わる諸問題が多くの子メディアを通じて紹介されていることも大きな要因になっているが、5～10年前に比較して林学科も女子学生の数が飛躍的に増加している。ちなみに1年生47名、2年生36名、3年生20名、4年生24名、院生4名と学生総数の約20%になり、男臭さの中に一輪二輪の花を咲かせている。

森林をテーマにした市民講座開催

林学科の教員が主体となり平成5年10月16日～12月4日までの7回に分け、「日本の森林・世界の森林」の統一テーマのもと藤沢校舎で講演が行われる。林学科からは下記の先生方がそれぞれの専門内容で講演される。

野村勇教授、難波宣士教授、山田房男教授、樋口隆昌教授、本江一郎助教授、浜本和敏助教授。

(石垣 逸朗)

桜 水 会

◇水産学科◇

1973年の夏は冷夏、北海道の大地震と津波、九州地方の水害と台風被害、関東地方の台風など、数えればきりが無い。この現象をどうとらえるか、人間に対する自然からの警告として考えてみてはどうでしょうか。自然からの恵みの漁獲物も適量間引いている時代には問題が少なかったのですから……。人間の欲望が強く、個人主義的身勝手が強くなればなるほど、自然崩壊を導くのですから、私たち水産生物の恩恵をいつまでも受けられるよう努力すべきではないでしょうか。

学科の人事

1期生の出口吉昭教授は、新年度より学部の執行部の学務担当として、きわめて複雑で冷静に判断を要求される重責をもたれ、活躍されておられます。学部の執行部としての顔と研究室、教室での顔とそれぞれ味わいが異なると思われませんが、健康を第一と考え、がんばって後輩にも道を開いてくださることを期待します。

昇 格

内田直行助教授（生物科学第2研究室）が、4月より教授とされました。同時に、研究室の名称を水産分子生物学と改め、学生指導にあたっておられます。

退 職

副手の丸山千賀子さん（水産増殖学研究室）が、結婚のためうれしい退職をされました。

大学院生定員以上の入学

水産学科では、大学院受験生が多数でかつ合格基準に達するものが多く、研究に従事する若い力を育てることは、きわめて重要であると考えられ、好ましいことです。以下に大学院の講座名（研究室名ではありません）と、指導教員を示します。

水産生物学 東 禎三教授、広瀬一美助教授、学生1年次2名（うち女子1名）

水産生物化学 西出英一教授、内田直行教授、学生1年次1名、2年次1名（女子）

資源環境学 門田定美教授、学生1年次4名

水産利用学 望月 篤教授、学生1年次1名、2年次1名。

水産増殖学 出口 吉昭教授、杉田治男助教授、学生1年次3名、2年次4名（うち女子1名）
漁業学 添田秀男教授、余座和征助教授、学生2年次3名

以上、1年次学生12名、2年次学生9名となっています。平成5年も受験希望者が多く、平成6年度は今よりさらに学生数が増加すると思われます。

学部学生

今年も夏期休暇を利用し、下田実験所で3実験、東京校舎で2実験が集中で行われ、いそがしい一時期をすごしました。また、スポーツでは全日本のメンバーになる者、クラブ活動で海外遠征に出かける者など、青年らしい生活をする者も多く、よき夏休みを利用しています。



沿岸での採集



採集終了 女の子だって男
長似合うでしょう？
実験うまくいった。
うれしい！（藤沢校舎で）

藤沢校舎に移転

すべての研究室ではありませんが、新校舎に移り新たな気持ちで研究にも力が入ると思われれます。卒業生の皆様にはなじみのないところですが、東京校舎から完全に引っ越すのもそんなに遠い先のことでありませんので、ぜひ各研究室に顔を出してくださいようお待ちしております。

事務局からのお願い

卒業する学生の就職先も種々ありますが、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

会費の未納の方はぜひお支払いくださいますよう会の健全な活動は皆様の援助なくしてはできませんので、よろしく願い申し上げます。

（広瀬一美）

工 学 会

◇農業工学科◇

工学会創立30周年記念祝賀会

盛大に開催される

平成5年5月22日18時より、京王プラザホテル・エミネンスホールにて、工学会創立30周年記念祝賀会が開催された。来賓、会員合わせて約250名の方々が出席され盛大に行われた。

30周年記念祝賀会実行委員長吉川宏一氏の開会の辞のあと、一川宏也会長があいさつを行い、続いて茂澤 栄学部校友会会長、門田定美学部長、千葉豪学科主任からご祝辞をいただいた。このあと、卒業後の活躍が著しい2名のOB（工藤謙一：昭和58年卒、昭和60年院修、財団法人神奈川科学技術アカデミー。石沢隆之：昭和59年卒、群馬県庁）に対し表彰が行われた。乾杯は八木 茂元会長の音頭で行われ祝宴に入った。

卒業後十数年ぶりに会う校友も多く、学生時代を懐かしむ姿がみられたのと、ご夫人同伴で出席された校友がかなりおられたのが印象的であった。会は

新役員・理事が決定

平成5年6月12日、東京校舎第1会議室において役員会が開催され、工学会第11期の役員と理事が選出された。新役員と理事は下記のとおりです。

会 長	村田 昇 (昭和41年卒)
副 会 長	吉川 宏一 (昭和40年卒)
〃	酒川 和男 (昭和47年卒)
〃	鈴木 昌二 (昭和49年卒)
会計理事	陳尾 友行 (昭和42年卒)
理 事	岩川 重雄 (昭和38年卒)
〃	戸崎 紘一 (昭和39年卒)
〃	新井 宏枝 (昭和44年卒)
〃	松田 隆宣 (昭和46年卒)
〃	広末 政行 (昭和47年卒)
〃	鈴木 重則 (昭和52年卒)
〃	玉川 雅仁 (昭和54年卒)
〃	凶師 健二 (昭和58年卒)
〃	田上もと子 (昭和60年卒)
〃	加古 師幸 (平成2年卒)

旧役員・理事の方々ご苦労さまでした。また、新役員・理事の方々にはこれからのご活躍を期待しております。なお、事務局長も世良田新事務局長に代わり、辻前事務局長は一川前会長とともに相談役になりました。



記念祝賀会に出席された方々

記念撮影のあと、20時30分閉会になったが、このあと会場を別に移して親交を深めた校友もかなりいたようである。なお、この祝賀会と同時に30周年記念誌も発行され、終身会費納入の方に発送されました。

学科人事

湯山文乃、宮田祐子両副手が3月末日をもって退職され、後任として小林千夏、山崎綾子両副手が着任されました。今後のご活躍を期待しております。

(川西啓文)

F T 会

◇食品工学科◇

【新任の先生よりひとこと】

食品衛生を

分析化学的に研究したい

武田
明治

私は九州大学医学部薬学科、大学院薬学研究科博士過程を終了後（昭和39年）、直ちに国立衛生試験所に入りました。大学時代は裁判化学・衛生化学講座、塚本久雄初代教授の門下で研究生生活を始め、向神経性薬物の生体内代謝研究に従事し、試験所時代は本年退職までに食品部室長、環境衛生化学部長、食品添加物部長を歴任し、大部分を食品衛生分野での調査研究に従事し、食品汚染原因物質の究明とその規制のための調査研究などを行いました。

本学では残留農薬および食品添加物を中心に、食品衛生を分析化学的にアプローチしたいと考えています。さらに、講義を通して分析化学が自然科学分野の基礎学問であり、食品衛生に対して必須であることを理解してもらえればと思います。

露木教授が食品低温保蔵学会賞受賞

食品工学科主任の露木英男教授（食品理化学）が、去る6月5日第37回日本食品低温保蔵学会大会で学会賞を受賞されました。受賞テーマは「食品の貯蔵中における脂質劣化と低温保蔵効果」で、同教授は昭和61年に日本食品工業学会でも学会賞（農水産物の脂質に関する食品化学的研究）を受賞しています。



なお、同教授は「私の受賞は学部をはじめ関係各位のご支援のたまものであり、とくに研究室スタッフ一同の日常の努力によるところが多く、深く感謝している」と語っています。

新企画 「校友を追って」

本企画は会員と準会員を繋ぎ、就職活動などの一助となることを目的としています。

今回は、ハム・ソーセージ関係の校友です。この方面には、校友の4～5%の方が就職されており、うち50%が1部、2部上場企業です。（25周年記念誌による）①卒業期名（卒業年）②会社名および仕事内容③仕事上で辛かったこと④楽しかったこと⑤その他（以下敬称略）



中川雅之 ①1期生（昭和40年卒）②プリマハム（株）フードサービス事業部埼玉フードサービス営業所。ファーストフード、ファミリーレストランほかの外出および給食、CVBベンダーなどに対する業務用のハム・ソーセージを

はじめ畜肉、その加工した食材の営業管理③営業のとき、新規開拓が思うように進まなかったり、メニュー開発が得意先に受け入れられなかったこと、④得意先のキーマンとうまく密着でき、売上げが拡大され、フードサービス事業部の収益があがったとき⑤当社は週休2日制でリフレッシュ休暇（4連休）も習得でき、余暇を多く持つことが可能です。また、東京ディズニーランドのスポンサーでもあり、入園は安価で利用できます。



黒田典明 ①10期生（昭和50年卒）②伊藤ハム（株）労働組合出向。業界の地位向上、社内の労働条件の整備に努めています。③④従業員の組合離れ解消に悪戦苦闘中。若者の価値観、ニーズを直接肌で感じとれ、結構楽しい⑤消費

者のニーズ、価値観の変化や流通業界の業態の変化が、私たちの業界にも影響を与え、業務内容も大きく変化したものも少なくありません。販売部門のルートセールスもその一つで、首都圏を中心に配販分離が進んで「物」を運搬しないセールスマンがふえています。製造においても、新生産ラインなどでは省力化が進んでいます。輸入関係では、商社や海外との取引業務や海外事業業務もあり、伊藤ハムにも魅力ある職種があります。



馬場恒芳 ①19期生（昭和59年卒）②タキザワハム（株）泉川ミートセンターに勤務。アウトバック（冷凍スライス肉）のデリバリーをしています③現在、精肉関係の部署なので、加工肉（ハム・ソーセージ）関係の仕事ができな

かったのが心残り④営業の仕事をしていたときに、自分が勤めた牛肉が売れたとき⑤当社は年末を除けば月平均7日の休日に、個人計画休日として30日、休日を設定して休みが取れるようになっています。

（竹永章生）

拓 友 会

◇拓植学科◇

奨学賞・優等賞を設置

平成5年度総会と懇親会を開く

平成5年6月19日(土)日本大学農獣医学部東京校舎第一会議室において、平成5年度の拓友会総会ならびに懇親会が開かれました。

【総会】

総会において、次のことが審議されました。

平成4年度事業報告

①総会・懇親会の開催②理事会の開催③会報発行

平成4年度会計報告

平成5年度事業計画

①総会・懇親会の開催②理事会の開催③名簿の整理④会報発行⑤奨学賞・優等賞の授与⑥卒業生へ記念品授与

平成5年度会計予算

奨学賞・優等賞の設置

役員改選

その他

この中で、拓植学科に在学する2、3、4年次の留学生の中から、学科の推薦する学生に与えられる奨学賞と、卒業生の中から推薦された若干名に、与えられる優等賞についての案が、新しい拓友会の事業として上程され、活発な討議が行われました。

特に、奨学賞に関する内規を作成し、これを拓植学科ならびに拓友会に置くこと、選考委員会を拓植学科内に設けること、さらに選考委員会から推薦された候補者については、拓友会理事会で承認ことなどが議決されました。

また、役員の改選については、近藤会長の留任をはじめ、全役員の留任が全員一致で承認されました。

【懇親会で3人に奨学賞を授与】

続いて行われた懇親会では、承認されたばかりの奨学賞受賞者が紹介され、近藤会長が賞状と賞品をみんなの拍手の中で授与し、留学生は頬を紅潮させながら賞を受け取っていました。奨学賞受賞者は次のとおりです。(敬称略)

2年次=周 明芳(中国出身)、3年次=葵 慧玲(台湾出身)、4年次=鄭 鼎民(台湾出身)

受賞後、奨学生を代表し、鄭鼎民君から「賞を励みに今後もいっそう勉学に努力します」と謝辞が述べられました。

また、参加者からは奨学資金にと、多額の寄付が寄せられました。拓友会としては、随時、奨学資金の寄付を受け付けておりますので、拓友からの絶大な協力を期待しております。



拓友会奨学賞を授与する近藤会長(左)



拓友会奨学賞受賞の3人(左から周さん、鄭君、蔡さん)

【退任】

村井 正之専任講師が、愛媛大学助教授として拓聘されたため、平成5年3月本学を退職されました。

本学科では、資源作物学などを担当されましたが、ご苦労さまでした。今後、新天地でのなおいっそうの研究の成果があらりますことをお祈りいたします。

【新任】

平成5年4月より倉内伸幸氏(昭和62年拓植学科卒)が、本学科助手としてこられました。同氏は本学科卒業後、信州大学の大学院に進まれ、園芸農学を専攻、修士号取得後、平成元年11月から海外青年協力隊の一員となり、チュニジアのケフ農業大学に助手として派遣され、平成4年12月まで勤務されました。本学科では環境農学研究室に属され、環境農学実験などを担当されます。今後の活躍をお祈りいたします。(緒方 行広)

むつあい会

◇短期大学部農学科◇

総会・懇親会を開催

むつあい会の平成5年度総会並びに懇親会は、6月12日15時より、藤沢校舎で開催された。

総会は、第1会議室で、議長に天野六江氏（4期）を選出し、平成4年度一般経過報告を齊藤忠雄事務局長より報告があり、平成4年度事業報告及び決算報告が報告された。監査報告は、横関・滝沢両幹事欠席のため齊藤事務局長が代わって報告し、承認された。

平成5年度予算案及び事業計画案も原案どおり承認され、年度予算額は、2,303,000円で運営されることになった。

続いて会則の一部改正が提案された。審議され改正の重要な点は、次の3点である。

1. 第5条に3項を設け「農学科関係教員は、客員とすることができる」としてなお一層先生方にご指導・ご協力をお願いすることになった。

2. 第12条役員第1項、副会長2名を「3名」に改正し、多忙な副会長職務の分担を考慮した。他分会の行事出席など定期的に集中することなどについて配慮したもの。

3. 学部校友会理事の選出が、役員にあったものを、第20条に「会長、副会長、事務局長の3名は、日本大学農獣医学部校友会理事を兼務する」とし、第13条役員選出の4項は削除された。

以上の3点が改正され、新しい条文に基づき3人目の副会長に吉川誠氏（28期）を選出した。若い力の活躍が期待される。

なお、本会の齊藤事務局長は、平成5年3月農学科教授を定年退職された。今後は、非常勤講師として学生指導に当られるが、本会の事務局長は退任されるので、新事務局長に富樫利男氏（6期・学部事務局職員）が新任した。

齊藤忠雄氏には、長い間の事務局長の職務で大変ご苦労されたので、記念品を贈ることとした。

総会終了後、会場を食堂棟2階に移し、恒例の懇親会を開催。来賓に、農獣医学部校友会会長茂澤呆氏始め各分会長、短大農学科長高橋文次郎教授始め短大の諸先生方、会員のほかに準会員（在校生2年

生）男女各5名計10名の方々も出席したが、当日は、外部諸団体でも行事の多った日のように、例年より会員の出席が少なかったようで淋しかった。

また、7月10日（土）の農獣医学部校友会総会・懇親会（京王プラザホテル）には、富沢会長、山本副会長、富樫事務局長、齊藤忠雄理事、鈴木明夫理事などが出席した。



齊藤忠雄氏
（前事務局長）



富樫利男氏
（新事務局長）

学科の動行

農学科では、3月に73名（42期生）が卒業し、4月に69名（女子48名）の新入生を迎え、2年生43名（女子30名）と合わせて112名が在籍となります。生物生産。環境保全の2コースに分れて勉学しています。1年生は鈴木基夫教授。2年生は渡辺慶一助教授が担任をしています。

短大農科長の齊藤忠雄教授が定年退職され、4月から、学部農学科の高橋文次郎教授が学科長に任命されました。また谷野安代さん（副手）が退職し、後任に、菅野里枝子さん（農芸化学科平成4年度卒）が勤務されています。

さらに、8月には佐武武彦教授が定年退職されました。齊藤、佐武両先生には、健康に留意され、ご活躍をお祈りいたします。

平成5年度の特待生は、2年生の松本治子さんが選ばれました。



副手
菅野里枝子さん



特待性
松本治子さん

卒業生の進路と就職状況

3月に73名が卒業しました。学部進学者43名、他学部1名、他大学1名、専門学校など2名、就職23名、農業自営者は3名でした。

事務局からお願い

本会も会員総数2585名となりました。勤務地や住所変更、また結婚などで名前などの変更になった方は、お手数でも事務局までご連絡ください。

（富樫利男）

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

短期大学部生活環境学科、校友の皆様お変わりございませんか、お伺い申し上げます。

農獣医学部校友会の一分会として発展し、早や4年が過ぎました。現在会員数は576名(平成5年6月30日)と充実の一途をたどっております。これもひとえに校友の皆様の温かいご指導とご支援のたまものと、心よりお礼申し上げます。

会長に岡崎祥子さんが決まる

平成4年度総会が11月7日虎ノ門バストラル(東京農林年金会館)で開催されました。議長に飯塚事務局長を選出、議事が進行され、新役員に会長に岡崎祥子さん(1期)、副会長に本田智子さん(1期)と沼倉由佳さん(3期)が選出されました。

総会は和気あいあいとした雰囲気で行われ、校友の間では藤沢校舎で過ごした学生時代の思い出を語りながら、短大教員との親睦を一層深めました。

〈学科の動向〉

生活環境学科は、去る3月に128名(7期生)が卒業し、4月に132名の新生を迎えました。2年生131名と合わせて263名が在籍し、住環境コース140名(1年生73名、2年生67名)、食生活コース123名(1年生59名、2年生64名)のコースに分かれて勉学に励んでいます。全学生のうち男子学生が25名で、女子学生の多いのが特徴です。

〈実習・見学〉

住環境コースにおいては、住居計画実習、住環境デザイン実習の一環として、2年生を対象として平成4年度は9月に札幌、小樽を中心に、12月に京都で桂離宮、修学院離宮を見学しました。これらの実習・見学は、我が国の伝統的、文化的作品として有



都市景観について説明を受ける住環境コース(札幌市役所で)

名な日本庭園、日本建築、歴史的風土の保全などの事例見学を通して、視学的知識の修得や観察力を養成する目的で実施されました。平成5年度は9月に京都、12月に長崎、熊本が予定されています。



食生活コースの人たち(那須ハイランドパークで)

食生活コースにおいては、本年度新たに食品工場見学が加えられ、平成5年7月18、19の2日間、日本大学塩原研修所を宿泊地として行われました。見学地としては栃木県酪農試験場、カゴメ那須工場、ハニー牧場、みつばち館などです。

〈学内で実施される

各種技能検定試験〉

① トレース技能検定試験(財団法人実務技能検定協会主催)平成3年度3級48名、平成4年度2級2名、3級34名の合格者を出しています。試験委員は飯尾、島田両助教授。問い合わせは飯尾先生まで。

② ワープロ技能認定試験(日本情報処理教育普及協会主催) 本学4号館のコンピュータ実習室で、上記試験は実施されました。平成4年度、第二回目の試験では10名が合格しました。

③ Lotus 1-2-3表計算処理技能認定試験(主催は②と同じ)平成3年度3級8名、平成4年度3級10名の合格者を出しています。②③についての問い合わせは情報処理研究室の青山助教授まで。

〈学科の近況〉

長年、本学のためにご尽力をいただいた科長・鈴木たね子教授が、平成5年3月定年退職されました。代わって、栗原淳教授が4月1日付で科長に任命されました。また、新しく9月1日付で成田弘子教授を迎えることになりました。

〈事務局からのお願い〉

平成5年度の生活環境学科校友会総会は、11月中旬に開催される予定です。追って通知いたしますので、皆様ふるって出席ください。また住所変更などありましたら、お手数でも事務局までご連絡ください。(後藤雅弘)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

第1回総会を開催

当応用生物科学科校友会は昨年3月、農獣医学部校友会の13番目の分会として設立され、活動を開始いたしました。

ちょうど1年目に当る去る3月13日(土)、藤沢キャンパスの食堂棟において、記念すべき第1回総会が開催されました。

本総会では、大谷憲司会長のあいさつのあと、「平成4年度事業報告」および「会計決算報告」が名取正彦事務局長および岩淵正明事務局員により行われ審議されました。次いで両氏により「平成5年度事業計画」および「予算案」が提示され、審議の上、いずれも承認されました。

総会終了後の懇親会は、学部執行部、校友会関係の多数の来賓のご臨席をいただき、また準会員の学科学学生を交えて和やかに行われました。



なごやかに行われた懇親会

会員数

今春3月、新たに154名の会員を迎え、会員数は267名になりました。また、現在準会員(学科在学生)数は、1年次141名、2年次174名、3年次153名、4年次140名の計608名です。ちなみに、男女の比率は3:2になっております。

学科の近況

教職員関係では、昨年3月定年により退任されました室岡治義先生は、本年2月名誉教授になられました。蛋白質科学研究室の張培淦研究生が、今年4月より助手として就任されました。また、副手の平野千恵さんが本年3月に退職され、後任として高橋尚子さんが着任いたしました。

学生関係では、前述の通り、今春154名の卒業生を送り出しました。その中で、峰村万貴さん(蛋白質科学研究室)は栄えある日本大学総長賞に輝き、表彰されました。

この平成4年度の卒業生たちも新しい分野を開拓しながら力強く巣立ちました。特徴的なこととして、大学院への進学希望者が多く、32名が学内外の大学院へ進学いたしました。

事務局から

第1回総会により、事務局員が一部移動いたしました。本会の設立に尽力されました名取正彦事務局長が勇退され、代わって中嶋睦安事務局員が引き継ぐことになりました。また、平野千恵事務局員の退職に伴い、代わって高橋尚子さんが事務局員に加わりました。従って、事務局での担当として庶務係柳川雅男、会報係佐藤嘉兵、会計係岩淵正明、名簿係島由紀子、高橋尚子のメンバーにより運営してまいります。よろしくお願いいたします。

前報でもお願いいたしましたが、会員の動向を把握するため、転動による住所変更、結婚などによる氏名の変更の際には、お手数でも事務局までご連絡ください。また、会報の発送など校友会活動の資金確保のためにも、終身会費未納の方は、ぜひご協力くださいますよう重ねてお願いいたします。

(中嶋睦安)

支部だより

わが同窓のさらなる努力を望む 秋田県支部

いつまでも続く低温・冷夏、今年は夏はこないのかと毎日天を仰ぐ農業者、そして農業・農村の経済力を基盤とする商工業界においても、この異常気象に混乱をきたしている現状であります。

天のなせるわざなるが故に、ただひたすらその回復を待つのであります。

加えて、コメをめぐる情勢は、まことにきびしいものがあり、また、展開されつつある新政策なるものも、いっこうに先行きどうなるのか、将来どんな姿になるのか、さっぱり見えない感じであります。

農業県を自認する秋田県におけるわが同窓は、この農業県を陰になり日向になり支え続けて今日に至っており その功績はまことに大なるものがあります。

しかし、農業は今や自然からも、世界からも、難問を提起され、ますますきびしさの中にあります。このときにあたり、わが同窓のさらなる努力を望むに切なるものがあります。

(支部長 佐藤鉄太郎)

高校体育祭部門別優勝チームにお祝いを出す 山梨県支部

山梨県下の校友の皆様、お変わりありませんか。今年は全国的に異常気象とのことで、真夏日が少なく、作物に影響があり、収穫減少が否めません。

日本大学農獣医学部校友会は茂澤新会長が新任されて、平成5年7月10日(土)に、総会が東京新宿で行われました。新体制下でのますますのご発展をお祈りいたします。

さて、校友会山梨県支部活動が停滞している折、OBの農業視察記を記載しておりますが、中国楽山市農業試験場へ県高齢者人材派遣事業団より派遣された山本信一氏(農学科昭和25年卒)が、水稲の講義を6日間行ってきました。通訳は日本で半年間農業研修した技師で、この地区では50%がハイブリッドトリスの栽培、10アール当たり籾で520kg収穫、当地方ではミカンも茶も栽培しているとのことと、現地より報告がありました。

北海道の農業について視察してきました農芸化学

科昭和34年卒の遠藤氏は、次のように述べております。一般に水稲、ビート大根、小麦、モロコシが主要作物で、広地のため機械による作業であります。連作をさけて4種類を交互に栽培しているとのことでした。今年は北海道も冷夏とのことでした。

前号で報告した古屋勝美氏の第2弾は、次号で引き続き報告します。

平成5年5月のゴールデンウィーク時に、八ヶ岳山麓の地元町村主催の植林祭には、地元大泉村在住の藤森義一氏(農業経済科34年卒)が参加しました。また、5月の高校体育祭には、日大明誠高校が参加し、総合では4位でしたが、部門別優勝チームには校友会山梨支部よりお祝いを差しあげました。このことについては、校長より礼状が支部あてに届いています。

平成7年には山梨県支部は10周年です。その節は盛大な総会を開催します。

(支部長 遠藤 晴正)

10月16日に総会を開催

藤沢グランドホテルで

神奈川県支部農獣医部会

秋も深まってまいりましたが、校友の皆様お元気ですか、お伺い申し上げます。

さて、農獣医部会は昨年10月3日に、創立15周年記念の総会・懇親会を、藤沢グランドホテルにおきまして、門田学部長、茂澤会長、北村県支部長をはじめ多くの来賓のご臨席をいただき、会員110名が集まり、盛大に開催されました。宴たけなわのとき恒例の高級果実・肉製品などのオークションが行われ、市価の6割~7割で買い物ことができました。最後に福引き抽選会があり、このときばかりは手もとの番号を見ながら、コンパニオンが引きだすカードの番号が呼びあげられるたびに、当たった! 残念! と、会場にいる若者(?)たちが一喜一憂しながら酒を汲み交わし、午後8時30分に無事終了しました。

本年の総会は10月16日(土)、藤沢グランドホテルで開催いたします。事務局には案内・招待状、その他が準備され、あて名書きで事務局員一同は大いそがしの状態です。

今年の総会は16年目ですが、大勢の会員のご出席をお待ちしております。(部会長 佐々木弘康)



昨年開かれた神奈川県支部農獣医学部総会に出席された方々

日本大学 農獣医学部校友会役員

名誉会長 門田 定美 (水産)
 会長 茂澤 杲 (農化)
 副会長 富澤 寿樹 (短農)
 " 日比野次郎 (獣医)
 " 山下 金義 (水産)
 理事 西鳥羽 曙 (農学)
 " 浅野 明 (農学)
 " 坪木 良雄 (農学)
 " 江刺 琢磨 (農化)
 " 木嶋 弘倫 (農化)
 " 若尾 良知 (獣医)
 " 白井 弥 (獣医)
 " 木村 栄一 (畜産)
 " 平田 芳弘 (畜産)
 " 小牧 弘 (畜産)
 " 三木 敏夫 (食経)
 " 村山 進 (食経)
 " 上野 恒雄 (食経)
 " 鹿野 忠 (林学)
 " 大川富士雄 (林学)
 " 濱本 和敏 (林学)
 " 日野 演彦 (水産)
 " 奥本 直人 (水産)

理事 村田 昇 (農工)
 " 吉川 宏一 (農工)
 " 鈴木 昌二 (農工)
 " 野田 義人 (食工)
 " 中村 清一 (食工)
 " 青井 幸雄 (食工)
 " 近藤良三郎 (拓殖)
 " 水野 包男 (拓殖)
 " 浜口 喜博 (拓殖)
 " 山本 正義 (短農)
 " 富樫 利男 (短農)
 " 岡崎 祥子 (短生)
 " 本田 智子 (短生)
 " 飯塚 統 (短生)
 " 大谷 憲司 (応生)
 " 中村 親民 (応生)
 " 津久井 通 (応生)
 監事 山根 勝次 (食経)
 " 西山 栄一 (農学)
 " 野田 郁夫 (林学)
 事務局長 木村 貞司 (畜産)
 事務局 本江 一郎 (林学)
 " 世良田和寛 (農工)
 " 丹羽 美次 (畜産)
 " 千野 誠 (食工)

高知県支部

平成5年9月11日第5回日本大学農獣医学部総会は、台風13号が日本列島を通り過ぎたあとの久し振りの土佐らしい晴天の中で開催しました。本部から



は門田学部長のかわりに水産学科の出口教授学部校友会の茂澤会長と獣医学科校友会日比野会長農学科石井教授の御臨席をいただきました。当日高知県支部会員24名出席で校友間の意義ある交流会となりました。当支部では今後毎年学科を定めてその学科を重点的に集める。これにより校友会の拡がりを進めて行くこととしました。

第1年目の平成5年は農学科の石井先生にお願いしました。第2年度は農芸化学科の予定です。当支部ではまだ予算、決算共にまだまだ小額ですが親善を第1として今後共に進んでゆきたいとがんばっております。高知県支部会員総数272名・支部会長長崎収夫（獣医学科31年卒）副会長中西正昭（農化36年卒）事務局長中西孝彦（林44年卒）会計松村春樹（水産51年卒）（支部長 長崎収夫）

校友通信コーナー

ダイビングに挑戦してみませんか

私がダイビングにのめり込んだきっかけは、大学に入学して間もなく沖縄へ行ったことでした。イリオモテ山猫を見るなどと出掛けたものの、美しい海のとりにことなって毎日泳いでいたことが昨日のように思い出されます。美しい珊瑚礁、人を恐れない熱帯魚など驚きの連続でした。この時同行し、ダイビングの道に引き入れた丹羽さん（畜産27期）とは今も変わらぬ親交を続けています。私はこの感動が忘れられず、ダイビングの普及や安全教育に少しでも寄与したいと、9月10日にもこの分野では大変著名なジャック・マイヨール氏を招いての講演会なども行いました。最近では、病院の診療も分院の先生方をお願いすることも多く、どちらが本業？といわれる始末です。

ダイビングなどという大変難しく、危険なスポーツと思われる方もおられるようですが、基本的な注意事項を遵守すればだれでも楽しむことが出来るものなのです。始めはマスク、シュノーケル、フリッ



パーだけで十分でしょう。そして、一度でも海の中を御覧になれば、きっとその魅力を理解されると思います。あなたも、ぜひ挑戦してみてください。私も長年の夢であった「ダイバーが気軽に美しい海を楽しめる施設」を沖縄に創る計画を進めています。興味をお持ちの方はオーシャン・スポーツクラブ皆川（TEL 0293-24-1155）までぜひご連絡下さい。私も多くの仲間と海に行くことを楽しみにしています。

皆川動物病院 皆川 武久（畜産 27期
獣医24期）

発行所

日本大学農獣医学部校友会

〒154 東京都世田谷区下馬3の34の1

電話 03-3421-8121 内線 354

編集・発行 会報編集委員会

委員長 富澤 寿樹

印刷所 東京商工株式会社